

## 生態系モニタリング調査計画（案）

西表島の約 9 割を占める国有林は、原生的な天然林が分布しており、数多くの固有種や希少種が生育・生息するなど、学術的にも非常に価値の高い森林を擁している。西表島森林生態系保護地域は、全島面積の約 7 割を占め、森林を保全することによって、海・サンゴ・河川の生態系や沿岸の水産資源まで保全できる森林生態系保護地域となっている。一方で希少種の保護や外来種対策、過大な利用による自然環境への負荷など、様々な課題を抱えている。

よって当該地域の森林生態系が適切に保護されるよう、継続的なモニタリング調査を行っていく必要がある。

### 【現地調査の項目】

#### ア 森林調査（毎木調査、植生調査、定点写真の撮影 等）

保護林モニタリング調査マニュアルに基づくとともに、現地の状況に合った効果的な手法を用いる。

#### イ 野生動植物の生息・生育状況の把握

西表島の森林を主な生息・生育地とする固有種や希少野生動植物について、生息・生育状況の変化を把握する。

#### ウ 外来種の生息・生育状況の把握

西表島の森林で生息・生育域の拡大が懸念される外来動植物について、生息・生育状況の変化を把握する。

#### エ 歩道周辺植生調査

横断道等の各歩道において、植生調査や定点写真撮影等を行う。

#### オ 河川周辺植生調査

動力船やカヌー等の利用が盛んな河川において、植生調査や定点写真撮影等を行う。

#### カ 利用動態調査

利用者数、利用実態を把握する。